

氏 名	Oliver Redsch
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3088 号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Comparison of German and Japanese General Practitioners' Awareness of Suicide and Attitudes toward Patients with Suicidal Ideation (開業医の自殺問題への意識ならびに自殺企図患者への対応に関する日独比較研究)
論文審査委員	教授 川上 憲人 教授 黒田 重利 助教授 松村 誠士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年の日本では自殺者数が年間3万人を超える異常な事態となっている。一方ドイツの自殺者数は20年間にわたり減少傾向を示し、また自殺率は日本の約2分の1である。このことは、自殺問題に関する日独差の中に、日本における自殺予防対策の糸口が存在する可能性を示している。今回私たちは、自殺問題に対する意識や自殺企図のある患者への対応について、日本(岡山県)とドイツ(ハンブルク州)の家庭医(日本では内科開業医)を対象にアンケートによる調査を行った。回答のあった134件(日本)および126件(ドイツ)について、自殺問題への関心度や自殺企図者への対処法の知識レベルを反映すると考えられた設問を対象に統計学的な比較検討を行った結果、両国間に有意差があった。この結果は、そのような関心度や知識レベルが、日本の内科医ではドイツの家庭医よりかなり低い可能性を示している。よって、日本において医師を対象とした自殺問題へ関心を高める活動や、自殺企図患者の治療に関する研修の実施が、自殺予防の有効な対策の一つになり得ると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、日本(岡山県)の内科開業医とドイツ(ハンブルグ州)の家庭医を対象として患者の自殺に対する医師の知識、関心および態度を調査し、回答のあった日本134件、ドイツ126件のデータを比較した。その結果、日本の内科開業医の方がドイツの家庭医よりも患者の自殺に対する知識や関心が少なかった。本研究は国際比較を通じて日本の一般開業医において自殺への対応が不十分であることを明らかにしたものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。

審査概要: 審査においては、論文草稿における数値の誤りについて修正することが求められた。また2国間の比較だけから医師の自殺に対する知識や関心が自殺予防に有効な可能性があるとは結論することの問題点が指摘された。